14 { 額板に2箇の圓域（窓狀の圓い區域）を有し，顎肢節の側板と基胸板との境界線は頭の兩側と平行,顎肢は大きい…… Pachymerium ferrugineum
額板に圓域を有しない。顎肢節の側板と基胸板との境界線は頭の兩側に平行せず斜になつている…… Scolioplanes maritimus japonicus

15 { 顎肢基胸板（基節）前緣の小齒は各5個以上，第6, 7, 9, 11, 13背板の後緣には3角形の突起を有する……Bothropolys asperatus
顎肢基胸板前緣の小齒は各2又は3個 …… 16

16 { 第1—13步肢の跗節は2分せず，體は褐黃（帶紫色のことあるも2分されることなし）。基節腺孔は3以上。雌生殖肢の爪は鋭く尖る …… Monotarsobius crassipes holstii
第1—13步肢の跗節は僅かに2分する。背板上には3角狀突起なく，步肢黃褐色……17

17 { 雄の第14步肢腿節に棘毛群あり，第15步肢の腿節上面に縱溝あり，單眼は9個が集つている……Lithobius sachalinus
雄の第14步肢腿節に棘毛群なく，第15步肢の腿節上面に縱溝なく，甚だ太い…… Lithobius pachypedatus

日本產多足類目錄（I）*

高島春雄

財團法人山階鳥類研究所

A Catalogue of Myriapods of Japan (I)

By Haruo Takashima

覽る人の便宜の爲舊日本產の種類も入れてある。通し番號に括弧を附したの

* 結合綱及び少脚綱は前稿「日本產多足類の概觀」中に揭げたから此の目錄では省いてある。

がそれである。

節足動物門—前性亜門—倍脚綱（馬陸綱）Diplopoda

Subclassis Pselaphognatha 觸顎亜綱

Ordo Pselaphognatha 觸顎目

Familia Polyxenidae フサヤスデ科

Genus Monographis Attems (1907) フサヤスデ屬 模式種 Monographis kraepelini Attems

(1) Monographis kraepelini Attems, 1907

トウマフサヤスデ（當眞總馬陸）（高桑良興・高島 1942 本種を沖縄で發見した當眞嗣元氏に因む）

1907 M. Kraepelini Attems, Mitt. Naturh. Mus., **24**: 99, f. 10-17, t. 1, f. 21, 22〔原記載：ジャワのボイテンゾルフ〕

1942 M. kraepelini 高桑・高島, Acta Arachnol., **7** (3•4): 124, f. 1〔新産地，全形圖〕

産地 南西諸島（沖縄本島首里）；ジャワ 此の種類は日本産とはいえなくなつた。

2 Monographis takakuwai Miyosi, 1947

ハイボクフサヤスデ（敗北總馬陸）（高島 1946 終戰後間もなく蒲生重男氏により發見されたのに因む）

1946〔學名無し〕 高島，蟲界速報，11: 41〔發見の由來〕

1946〔學名無し〕 蒲生，生物，**1** (2): 117〔産地〕

1947〔學名無し〕 蒲生，生物，**2** (5): 159〔新産地〕

1947 M. takakuwai Miyosi, Acta Arachnol., **10** (1•2): 2, f. 1, 2〔原記載：愛媛縣西宇和郡三瓶町〕

1947 M. takakuwai nigricans Miyosi, 同 **10** (1•2): 7

1947 M. takakuwai takakuwai Miyosi, 同 **10** (1•2): 8

1948〔學名無し〕 無記名，生物通信 5: 10〔新産地〕

1948〔學名無し〕 蒲生，神奈川師範新聞，11: 2〔全形圖〕

1949 M. takakuwai nigricans Miyosi, 高島，採と飼，**11** (10): 310〔新産地，生態寫眞〕

産地　本州（千葉縣，東京都，神奈川縣，靜岡縣），四國（愛媛縣：松山市，八幡濱市，西宇和郡三瓶町），九州（大分縣下でそれらしい物を採集した人があるが標品は殘つてゐない）

附記　昭和24年7月23日の東亞蜘蛛學會例會に芳賀昭治氏は「日本の觸顎類」と題して講演した。それによると所謂ハイボクフサヤスデは3亞種に分けられ和名も夫々次のようにすべきであるという。

M. takakuwai takakuwai Miyosi　ウスアカフサヤスデ（芳賀氏新稱）千葉縣，東京都，神奈川縣等で採集されている。模式產地は愛媛縣三瓶町。

M. t. nigricans Miyosi　イソフサヤスデ（芳賀氏新稱）神奈川縣では江ノ島其の他（模式產地は江ノ島），東京都八丈島，靜岡縣等で採集されている。

M. t. kinutensis Haga (MS.)　ハイイロチビケフサヤスデ（芳賀氏新稱）今のところ東京都世田谷區砧（キヌタ）だけにしか見つかつていない。同地では多數の個體が採集された。

Subclassis Chilognatha　唇顎亞綱

Supraordo Opisthandria　後雄上目

Ordo Oniscomorpha　蟠形目（タマヤスデ目）*

Familia Glomeridae　タマヤスデ科

Genus Hyleoglomeris Verhoeff (1910) **　タマヤスデ屬　模式種 Hyleoglomeris multilineata Verhoeff

3 Hyleoglomeris (Perkeomeris) stuxbergi (Attems, 1909)

フイリタマヤスデ（斑入球馬陸）（岸田久吉1928）；クロマメヤスデ（黑豆馬陸）（中村正雄 1925）

1909 Glomeris Stuxbergi Attems, Ark. f. Zool., 5 (3) : 26, t. 1, f. 18 〔原記載："Japan : Mangaesi, Fuss des Fusijama" ＝ 富士山麓馬返し〕

1925 G. stuxbergi，中村，新潟縣天產誌，593〔目錄〕

1928 G. Stuxbergi　岸田，富士の動物，438, f. 38 〔記載，全形圖〕

1936 G. stuxbergi　岸田，日光の植物と動物，487 〔目錄〕

1936 Hyleoglomeris (Perkeomeris) stuxbergi Verhoeff, Trans. Sapporo Nat.

---

* タマヤスデという和名を始めて用いたのは岸田久吉氏である。

** Nespglomeris Carl (1912) は本屬の異名。

Hist. Soc., **14** (3) : 164

未發表 H. stuxbergi 高桑, 日本動物分類, **9** 6 (1) : 22 〔記載〕

產地 本州 (新潟縣柏崎, 栃木縣日光, 富士山麓馬返し, 須走村, 須走口)

4 Hyleoglomeris (Perkeomeris) japonica Verhoeff, 1936 *

ヤマトタマヤスデ (日本球馬陸) (高桑良興 1944)

1936 Hyleoglomeris (Perkeomeris) japonica Verhoeff, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc., **14** (3) : 165, t. 4, f. 15-18 〔原記載 : Enosima bei Tokyo〕

未發表 H. japonica 高桑, 日本動物分類, **9** 6 (1) : 22, f. 19 〔記載, 部分圖〕

產地 本州 (神奈川縣江ノ島, 福井縣鵜村)

5 Hyleoglomeris (Perkeomeris) insularum Verhoeff, 1936

ミクニタマヤスデ (皇國球馬陸) (高桑良興 1944)

1936 Hyleoglomeris (Perkeomeris) insularum Verhoeff, Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc., **14** (3) : 166 〔原記載 : "Aus der Gegend von Tokyo" = 東京附近〕

未發表 H. insularum 高桑, 日本動物分類, **9** 6 (1) : 23 〔記載〕

產地 本州 (東京附近)

(6) Hyleoglomeris (Perkeomeris) yamashinai Verhoeff, 1937

ヤマシナタマヤスデ (山階球馬陸) (新稱) **

1937 Hyleoglomeris (Perkeomeris) yamashinai Verhoeff, Zool. Anz., **119** (1•2) : 39, f. 9 〔原記載 : Riu-Kiu-Insel Okinawa〕

產地 琉球 (沖繩本島)

---

* 日本動物圖鑑 (1927) の p. 592 に示されるタマヤスデ Glomeris nipponica Kishida は Verhoeff 示す所の種的標徵がその記載の中に現れていないのではつきりしないが, 本種と同種であるかも知れず。

** 山階芳麿侯御派遣琉球列島生物調査隊の齎した標品を高桑氏が Verhoeff の許に送り新種と考定されたもので學名, 和名共山階博士に因む。